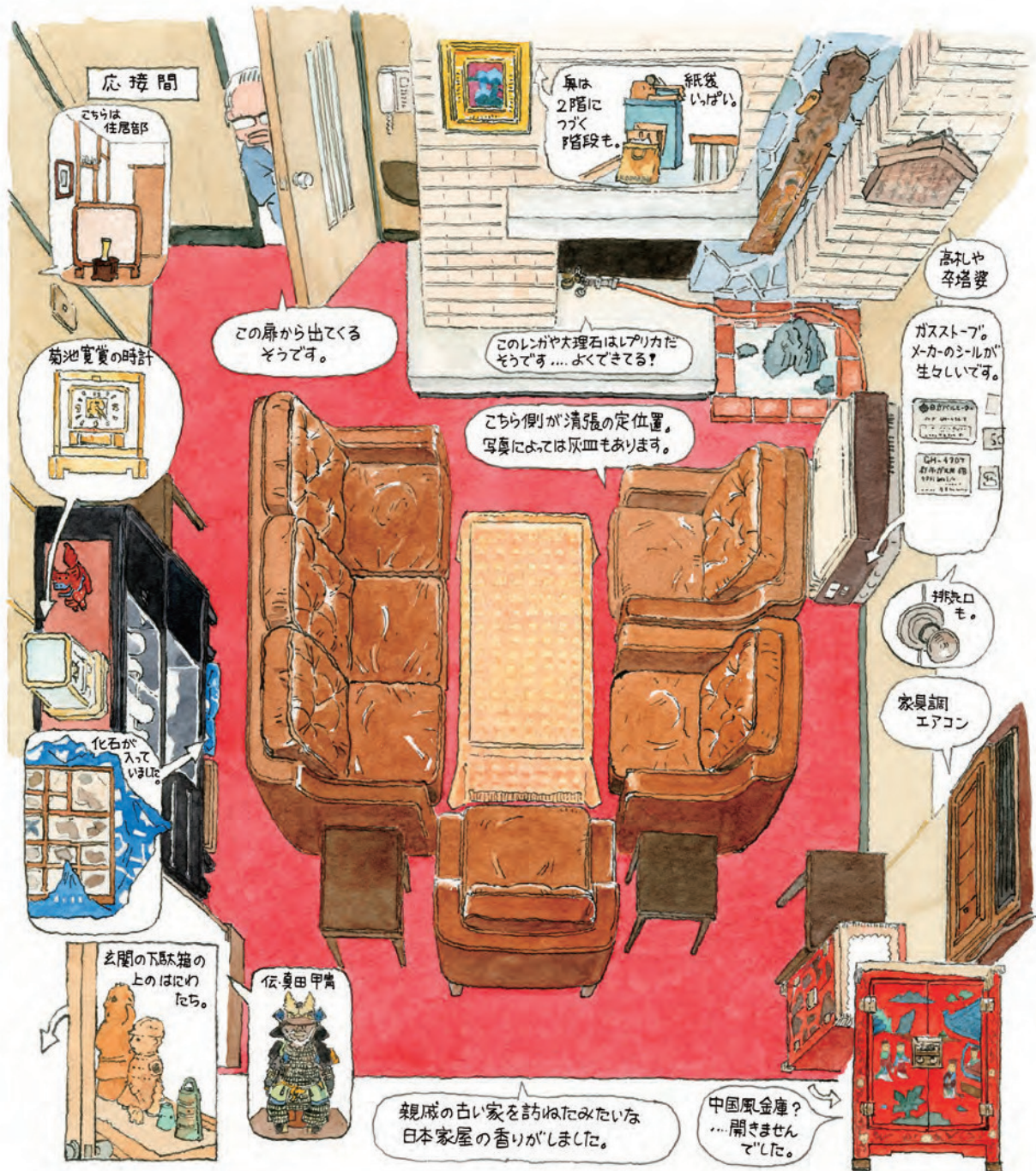


# 松本清張記念館

◆館報◆  
2018.8  
第58号



開館20周年記念事業特別記念  
ルポルタージュ

モリナガ・ヨウの  
「探訪 松本清張記念館」

今回、表紙を飾った絵は、イラスト・ルポの名手、モリナガ・ヨウ氏によるものです。これは、当館の展示「再現家屋」を、特別に取材していただき、制作をお願いしたものです。

ガラス越しに見つめるだけでは、ちょっとわからないような細部について、詳しい説明やエピソードが盛りだくさん。いくら見ても飽きることはない、モリナガワールドをお楽しみください。

目次

- 開館20周年関連..... 2
- 「砂の器」シネマコンサート..... 3
- 企画展「清張オマージュ展」..... 4
- 20周年企画 あふれる想いを..... 5
- 清張作品総選挙結果発表..... 5
- 松本清張研究会 第38回研究発表会..... 6
- 第21回松本清張研究奨励事業募集..... 7
- 友の会 活動報告..... 7
- トピックス..... 8



# 松本清張記念館 開館20周年

MATSUMOTO SEICHO MEMORIAL MUSEUM 20th ANNIVERSARY

## 開館20周年記念トークショー

TVプロデューサーと脚本家が語る

清張ドラマの世界

20周年記念事業の第一弾として、6月21日(木)に、北九州芸術劇場小劇場にて、テレビ朝日のプロデューサー内山聖子さんと、脚本家の浅野妙子さんによるトークショーを行いました。

人気ドラマを手掛けるお二人とあつて、定員を大幅に上回る申込みがあり、抽選で外れた方には申し訳ありませんでした。

当日は、お二人が制作に携わったドラマ『霧の旗』から、北九州市内でロケを行った場面を5分間ほど流し、ドラマのときの話をさせていただきました。撮影をしていると地域の方々が差し入れを持ってきてくれたという温かいお話や、キャストイングに苦労した

作品だったということも

明かしてくださいました。

また、どういう清張作

品が好きですかという司会者の問いかけにたいして、浅野さんは「世の中の片隅で生きている人を取り上げた話やせつない話が好き」ということで『或る小倉日記』と『伝』と『遠くからの声』を、また、内山さんは、「派手な悪女が



会場の様子

出てくる派手な話が好き」ということで、『疑惑』と『黒革の手帖』を挙げられました。

その後も、それぞれに手掛けたドラマの裏話や、清張作品はドラマにするときに登場人物の誰を主人公としても成り立つという話、内山さんと米倉涼子さんが二人で北九州に来た時の話など盛りだくさんで、あつという間の90分間でした。

参加した方々からは「おもしろかった」「貴重な話だった」等の声が寄せられました。



和気あいあいの内山聖子さん(左)と浅野妙子さん(右)



## ● 松本家より寄附金授与 ●

記念館の開館20周年に伴い、松本家よりご寄附をいただきました。5月16日に北九州市役所で贈呈式を行い「記念事業などの文化事業に役立ててほしい」と松本陽一さんから北橋市長に寄附金が手渡されました。



贈呈式にて

西日本初!!

# 「砂の器」 シネマ・コンサート開催!

シネマ・コンサートとは、オリジナル映画のセリフや効果音はそのままに、音楽部分のみをフルオーケストラが生演奏するもので、今回、満を持して不朽の名作「砂の器」を上映します。



**日時** 11月25日(日) 14:00開演

**会場** 北九州芸術劇場 大ホール

**演奏** 九州交響楽団

**チケット** S席5,000円、A席(3階席)3,800円  
(全席座席指定、未就学児入場不可)

**販売** ・松本清張記念館ミュージアムショップ(9:30~17:30)

・九響チケットサービス/TEL 092-823-0101(受付時間 平日9:30~17:30)

お問い合わせ先 北九州市立松本清張記念館事務局 TEL 093-582-2761 FAX 093-562-2303

## イラストレーターのモリナガ・ヨウさんによるイラスト・ルポ

表紙にも掲載しておりますが、イラストレーターのモリナガ・ヨウさんに、記念館再現家屋内に特別に入らせていただき、イラストによるルポルタージュを描いていただきました。20周年記念事業のPR紙として、市内文化施設や記念館で配布しております。細部まで、見ごたえのある内容ですので、見かけた際には、お手にとってゆっくりご覧ください。また「清張オマージュ展」の図録にも掲載されております。こちらも保存版です!





開館20年記念 特別企画展

# 清張オマージュ展

松本清張記念館は平成30年をもって開館20周年を迎えます。これを記念し、清張作品を敬愛し創作の情熱を得たアーティストによる、清張へのオマージュ作品を集めた企画展を開催します。清張が、後世に与えたインスピレーションは、どのようなものだったのでしょうか？様々に語られ、描かれた、「清張」や「清張作品」をご紹介します。祝祭的企画展です！



## 1 文学

現代の作家によって書かれた、文学的清張オマージュ作品を紹介します。



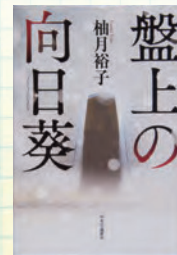
村上龍「55歳からのハロウィン」  
2012年 幻冬舎



恩田陸「砂丘レクニック」  
「不連続の世界」所収  
2008年 幻冬舎



東野圭吾「白夜行」  
1999年 集英社



柚月裕子「盤上の向日葵」  
2017年 中央公論新社

## 2 漫画

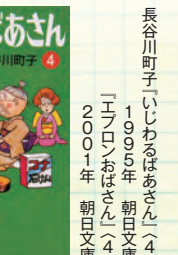
著名な漫画に登場する「描かれた清張」。特徴のある風貌や、ベストセラー作家としてのパブリシティは、突出していました。



西岸良平「鎌倉ものがたり」  
1999年 双葉文庫名作シリーズ



長谷川町子「いじわるばあさん」  
1995年 朝日文庫  
「エプロンおばさん」所収  
2001年 朝日文庫



長谷川町子「いじわるばあさん」  
1995年 朝日文庫  
「エプロンおばさん」所収  
2001年 朝日文庫



水木しげる  
「コケカキイキイ外伝(2) 魔女上陸」  
「水木しげる漫画大全集076」  
「コケカキイキイ他」所収  
2013年 講談社

## 3 映画

清張作品は、〈映像的〉であると言われる。そのことが、映画人を魅了した理由の一つでした。清張映画は、現在の映画人にも影響を与えています。



「踊る大捜査線 THE MOVIE 2 レインボーブリッジを封鎖せよ！」  
2003年/東宝



イラスト：山藤 章二

**みうらじゅん**  
～清張に魅せられて～

清張を敬愛してやまない、みうらじゅんによる、清張愛あふれる創作の数々を紹介します。

**黒田征太郎**  
～清張さん、イマをどう思う？～

「今」を問い続ける黒田征太郎が、清張に共鳴して激しく描いたライブペインティングを放映します。

**山藤章二**  
～清張に見出された“俺の絵”～

似顔絵の名手・山藤章二による清張のイラストは、清張の風貌を、シンプルな線で見事に捉えています。

開館20周年特別記念ルポルタージュ モリナガ・ヨウの「探訪・松本清張記念館」

企画展開催に当たり、当館ホームページや館報等で「清張オマージュ作品」を募集しました。情報提供くださった皆様、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。





# あふれる想いを… 6

今回は、記念館建設当時、株式会社トータルメディア開発研究所で展示に携わられた山口廣喜さんに記念館にお越しいただき、インタビューさせていただきました。建設前の松本家のお写真などを見せていただきながら、当時のお話をお伺いしました。



元株式会社 トータルメディア開発研究所  
チーフプロデューサー

山口 廣喜 氏

## 山口さんは記念館の建設当時どのようなお仕事を担当されていたのですか

松本清張記念館の建設が決まって、基本計画の時から展示設計までは展示全体のプロデューサーとして、展示制作では住居の一部再現、書斎の復元についての担当プロデューサーとして携わりました。

## 住居の一部を東京から遠く離れた北九州に再現するというのは本当に大変だったと思います。そのときのお話を聞かせてください。

浜田山の松本邸に当時の担当者たちが何度も足を運びました。最初に伺ったときにまず書庫のボリュームに圧倒され、ここから清張さんの作品の大半が生み出されてきたんだという感動を覚えました。書斎と応接間と書庫を再現することが決まってから、再現家屋を建物の中にとどめて納めるかという話になり、建築設計の宮本先生が、作品のエネルギーが湧き上がって、広がっていくというイメージで、記念館の壁や屋根を少しだけ外に広がらせたんですね。少し丸くしたというか。(ちょっと見ではわからない程度ですが、)壁も屋根も少し膨れた感じになっています。



## 当時、苦労した話や失敗談など今だから話せる話がありますか

今だからというわけではないですが、大きなプロジェクトだったので、たくさんの方が関わっていました。職種の違う担当

者たちなので、それぞれ意思の疎通を図るのが結構大変でした。ここで説明した話を、別の場所にも説明に行くというようなことがけっこうありました。

## この記念館の仕事に携わったことで得たものがありますか

自分の仕事人生の中でも代表的な仕事ですし、思い出に残る貴重で有意義な体験でした。

## 当時のエピソードなどありましたら教えてください。

あの当時、何度も東京で打ち合わせをしていました。ちょうど地下鉄サリン事件があった頃で、打ち合わせが1日2日ずれていたら、ちょうど乗り合わせていたかもしれないかったです。

## 今の記念館を見て、開館当時との違いとか思うことはありますか

基本的には、ほぼ変わっていないですね。あの頃のままで。ただ、施設は20年経ったなという感じはありますね。設備はやはり20年もすると老朽化しますから、更新が必要になりますね。照明など今ではLEDがありますし、そのほか映像機器などの部分でも、時代に合わせていけると良いとおもいます。

## 最後に、今後の記念館に向けて一言お願いします。

今後は、新たなファン層の開拓が必要ですね。時代が変わると物事の見方が変わることもあるので、古いことが逆に新しく、これからの時代にマッチすることもきっとあると思います。若い世代に対するアプローチを変える必要もありますよね。それを探っていきながら、変わらないまま残すべきところはきちんと活かしていくことも大切だと思います。

お話を伺ったあとで、改めて、記念館の壁を外から眺めてみました。確かに、少し丸みを帯びていて、中でエネルギーが湧き上がっているようなイメージを感じることができました。

## 清張作品総選挙の結果発表!!

2月1日から開催していました

「開館20年の軌跡展」において募集しておりました、清張作品総選挙の結果を発表します。

### 1位 砂の器

### 2位 点と線

### 3位 黒革の手帖

となりました。4位は同率で「或る」「小倉日記」伝と「ゼロの焦点」、6位は「日本の黒い霧」7位は同率で「けものみち」「地方紙を買う女」「霧の旗」「鬼畜」となっています。なお、投票いただきました方の中から抽選で10名様に記念館グッズをご送付いたします。該当者には発送をもってお知らせいたします。



# 松本清張研究会 第38回研究発表会

平成30年6月2日(土)  
午後2時 東京学芸大学

## 講演

### 清張ミステリーにおける 乱歩の変奏

—「顔」収録作を軸に—

講師 浜田 雄介

成蹊大学教授・「新青年」研究会



歩の専業作家デビュー作「心理試験」へのオマージュ作です。いずれの作品も「女を殺して金を奪った犯人は、あらかじめ自分に嫌疑がかかる」ことを想定しうまく切り抜けるが、思わぬところから破綻が生じて真相が発覚する」という、倒叙ミステリーのお手本のようなストーリー展開です。詳しく見ていくと、犯人の動機を冒頭に置くスタイル、その人間観や、窃盗と殺人との軽重比較、あえて不自然な細工を避け、証拠となる金を自分の手元に置かない工夫など、共通する部分が多く見つかります。これは偶然ではなく、「心理試験」にも出てくるミンスタマーバグの固有名を出しているあたり、清張が乱歩へのオマージュを示すべく、賢明な読者に向けて遣した暗号キーでしょう。

一般に、清張と乱歩は対立的に捉えられることが多いのではないのでしょうか。確かに江戸川乱歩へのアンチテーゼとして松本清張が現れたという側面はあると思います。しかし乱歩は清張を高く評価していません。清張が乱歩に否定的だったわけではありません。清張が昭和36年に記した「日本の推理小説」は、「探偵小説を『お化け屋敷』の掛小屋からリアリズムの外に出したかった」との志から推理小説を書き始めたという、よく知られた二節を含む文章ですが、乱歩の登場については読者としてリアルタイムで経験し、「日本にも本格的な探偵小説家が出たと驚嘆した」と回想しています。

昭和31年に刊行された清張の作品集「顔」が第10回日本探偵作家クラブ賞を受賞しますが、乱歩はその選考委員の一人でした。そして乱歩の依頼により執筆された雑誌「宝石」に掲載されたゼロの焦点は、清張の代表作の一つとなります。

今回はこの短編集「顔」に収録された作品をとりあげ、清張の乱歩作品との関わりをみていきます。まず清張の「反射」という作品は、端的に言うところ

次に、スクリーンに映し出された登場人物の顔がカギとなる清張作品「顔」を取り上げます。映画監督を目指した時期もあった乱歩は、作家となる以前の「大正9年に執筆した論文」『写真劇の優越性について』において、映画のクローズアップ技法の効果や顔面芸術について詳述しています。そして「猟奇の果」「人間豹」といった小説作品でもこの「顔面の大写真」を多用し、顔貌や形相のディテールがくどいほど描写されており、物語に二層のおどろおどろしさが与えられています。それに対し清張は、顔そのものではなく「虚無的な感じの面つき」の商品としての側面や、車窓風景の中での見え方などにこだわります。つまり乱歩も清張も、顔の大写真という同じ材料を使ってミステリー作品を仕上げているが、その表現方法や読者に与える印象にはそれぞれ「らしさ」と時代性が見み出しています。

そして「市長死す」では、犯罪の現場として、さらに登場人物の過去が明らかになる舞台として、崖が描かれています。崖は「ゼロの焦点」をはじめとする多くの清張作品に登場するため、今日では清張ミステリーの定番のようなイメージがあるかもしれませんが、しかし、それ以前に乱歩が書いた「石榴」や「断崖」といった作品でも、崖の上で登場人物たちが過去の犯罪

を回想し、崖を用いたラストを迎えています。乱歩に限らず、探偵小説における崖は、その物理的落差形状により犯行現場として利用されるだけでなく、登場人物たちの生と死を隔てる境界、あるいは過去の召喚や告発の舞台といった、心理的象徴的な描き方もされてきた。その伝統の上に清張がいるわけです。その他の「顔」収録作品では、「張り込み」に描かれる逮捕のタイミングや、「なぜ」「星図」が開いていたかにおけるプロバビリティの犯罪、「殺意」におけるライバル

## 研究発表

### 自筆原稿・日記書簡類を素材とした 日本近現代史学史の研究

—徳富蘇峰・平泉澄往復書簡を中心に—

講師 坂口 太郎

高野山大学助教



作家松本清張は、『小説東京帝国大学』や「断崖」

「笛壺」カルネアデスの舟板」など、学問や学界を素材とする作品を数多く残した。これらは天皇制国家に絡め取られる近代歴史学の性格やアカデミズムの虚妄性を鋭くえぐり、個々の研究者の内面に立ち入った心理分析や人物描写を通して鮮烈な読後感を与える、いずれも秀逸な作品である。それと同時に、「種の学問史研究としての性格も備えている。日本近現代史学史の分野は、これまで多くの研究が蓄積されている。その反面、至近の時代であるため未公刊史料が多く、僅少な史料に基づく分析が、誤った歴史像を描く可能性もある。ゆえに、個々の歴史学者の内面に迫るには、根本史料の発掘が不可欠である。

関係など、別にこれらは乱歩の影響というわけではあ

「反骨の作家のイメージがある松本清張ですが、こうしてみると、乱歩をはじめとするそれ以前の探偵小説を大いに勉強し、それを十分意識しながら、自らの時代のリアリティを表現する、実に繊細な作家でもあったという側面も、垣間見えてくるのではないのでしょうか。

本研究は、二人の歴史家、徳富蘇峰と平泉澄との往復書簡を主たる素材として、従来注目されていなかった両者の交遊関係や、戦後日本に対する考えの一端を解明しようとするものである。

当初ジャーナリストであった蘇峰は、大正期から歴史家として活躍し、代表作『近世日本国民史』の執筆を開始する。古典籍のコレクターでもあった蘇峰は、東京帝国大学史料編纂掛の編纂所に所蔵史料を提供し、また史料編纂掛が採訪した膨大な史料を『国民史』執筆に利用するという、史料の相互融通を通して官学アカデミズムとの関係を深めた。その中で、蘇峰と東大の若手中世史家であった平泉との接点が生まれる。蘇峰急病の際には平泉が代わって講演したり、洋行から帰国した平泉を蘇峰が激励したりと、両者の関係は深まっていた。洋行後の平泉は、独自の国体論に立脚した歴史観を表明し、その先鋭的な言動は注目を集めていく。

戦時期に入ると、蘇峰・平泉の接触は少なくなるが、敗戦を経て密接な交流が再開する。公職追放を受けた両者の間では書簡の往復が頻繁にあり、官学アカデミズムの変化に対する不満や、めざましく台頭した唯物史観への批判を展開している。平泉に公職追放の解除申請や活動再開、上京を勧めたのは蘇峰であり、蘇峰が存命中に達成できなかったのは蘇峰であった。以上のとおり、戦前・戦後期における歴史家たちの交流関係、そしてそれぞれの歴史観や当時の歴史学をめぐる諸相までもが、自筆の書簡類を通して読み取られるのである。





## 松本清張研究奨励事業 入選企画決定

「松本清張研究奨励事業」は20回目を迎えました。選考委員会による厳正な審査の結果、2件の研究企画が入選しました。

### 松本清張、未完の仕事—《荒木光子の戦後史》

北原 恵

(大阪大学文学研究科教授)

### 松本清張文学の韓国における翻訳現況と特徴

代表 金宰爽

(韓国・慶北大学校教授)

## 第21回 松本清張研究 奨励事業募集

### 募集要項

- 対象 ① 松本清張の作品や人物を研究する活動  
② 松本清張の精神を継承する創造的かつ斬新な活動(調査、研究等)  
※上記①②の活動で、これから行おうとするもの。  
ジャンル、年齢・性別・国籍は問いません。ただし、未発表に限ります。個人又は団体も可。
- 内容 入選者(団体)に120万円を上限とする研究奨励金を支給します。
- 応募期限 平成31年3月31日

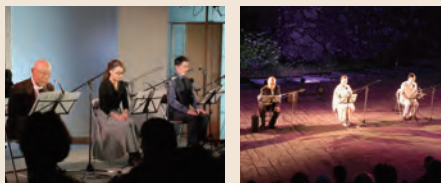
※詳しくは、ホームページをご覧になるか、記念館までお問い合わせください。

## 友の会 活動報告

### 朗読劇「或る『小倉日記』伝」、「霧の旗」

平成30年5月26日(土)、27日(日) 参加者194名  
松本清張記念館・屋外特設スタンド(26日)、地階ホール(27日)

劇団前進座による朗読劇は、今年で15回目を迎え、春の恒例事業となっています。今年は、記念館開館20周年を記念し、2日間公演といたしました。参加者は、2日間合わせて194名でした。今回は、初日に「或る『小倉日記』伝」、2日目に「霧の旗」を上演しました。「或る『小倉日記』伝」は例年通り小倉城の石垣をバックに、中庭全体を舞台として使い、「霧の旗」では一転して、記念館の地階ホールが小劇場を思わせる空間に変身しました。照明、音響、そして出演者の皆さんの、声だけとは思えない巧みな演技が一体となり、参加者からは、「逼真の演技に魅了された。」「本物の桐子(「霧の旗」の主人公)に会えました。」等の感想が寄せられました。



### 清張サロン

清張サロンでは、清張作品や清張に関する話題をテーマとした講演や参加者との意見交換・交流を行っています。6月に開催した第4回清張サロンは、「『ヤングレディ』の旅—松本清張と女性週刊誌」と題し、福岡教育大学教授の久保田裕子先生に、清張と女性週刊誌との関係等についてお話いただきました。

第4回 平成30年6月8日(金)14時～16時

- 場 所：松本清張記念館・企画展示室
- 講 師：久保田裕子氏(福岡教育大学教授)
- テーマ：

「『ヤングレディ』の旅—松本清張と女性週刊誌」

### 文学散歩

テーマ：春の文学散歩～能登・金沢と世界遺産の旅～

平成30年5月13日(日)～15(火) 参加者27名  
1日目 金沢駅→千里浜なぎさドライブウェイ→巖門・松本清張歌碑  
2日目 輪島朝市→ヤセの断崖・義経の舟隠し→世界遺産 相倉合掌造り集落  
3日目 金箔工芸 箔座本店→ひがし茶屋街

今回の文学散歩は、記念館開館20周年を記念し、2泊3日の行程で、「ゼロの焦点」の舞台である能登・金沢と世界遺産・相倉地区合掌造り集落を訪ねました。初日はあいにくの雨模様で、能登金剛の景勝地である巖門と清張の歌碑は傘を差しての見学となりましたが、2日目から天候も回復し、ヤセの断崖では日本海の眺望を堪能することができました。また、映画「砂の器」のロケ地にもなった相倉地区合掌造り集落では、現地ガイドの方から、映画撮影当時のエピソードをお話いただき、映画に出てきた風景をバックに記念撮影をするなど、大変有意義な訪問となりました。

た。3日目には、金箔工芸やお茶屋文化など加賀百万石の文化を体感しました。

参加者の皆さんからは、「『ゼロの焦点』『砂の器』の理解が少し進んだと感じた。」「懐かしい景色を、また見ることができ、息子夫婦と一緒に参加できて幸せでした。」「小説の中の主人公たちの心の葛藤が伝わり、しみりました。」といった声寄せられました。



### 友の会会員 更新のお知らせと新規会員募集

松本清張記念館友の会は8月1日～翌7月31日を1年度として、文学散歩や清張サロン、講演会、生誕祭、「友の会だより」の発行、記念館に関する情報提供など多彩な事業を展開しています。年会費は3,000円です。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

友の会入会のお申込は、  
松本清張記念館友の会事務局まで  
TEL.093-582-2761





平成30年度

中学生・高校生

## 読書感想文コンクール

若年層に清張作品に親んでもらうとともに、表現力を学び、豊かな心を育む契機となればという思いから始めました。

新時代を切り開く若者達へ、探求の人・松本清張の精神の伝達を働きかけるものです。

■ **応募対象** 全国の中学生・高校生

■ **課題図書** 中学生・高校生ともに下記から1作品

## 「西郷札」

(『西郷札』新潮文庫、『西郷札』光文社文庫)

## 「顔」

(『張込み』新潮文庫、『声』光文社文庫)

## 「ゼロの焦点」

(『ゼロの焦点』新潮文庫)

■ **応募方法**

○中学生、高校生ともに1200～2000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。

○手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし全体の字数がわかるよう応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。

○原稿は自作で未発表のものに限ります。なお応募原稿はお返しいたしません。必要な人はコピーをおとりください。

■ **応募締切** 平成30年9月30日(日) ※当日消印有効

■ **選考** 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

■ **発表**

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、11月中旬頃、本人と学校に通知し後日表彰式を行います。なお、入選の結果は、当館発行の「館報」で発表する予定です。その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

■ **賞** (受賞人数等変更の場合もあります)

○最優秀賞(1人)

○優秀賞(中学の部…1人)(高校の部…1人)

○西日本新聞社賞(中学の部…1人)(高校の部…1人) **新設**

○佳作(中学の部…3人)(高校の部…3人)

※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各1回ずつの受賞と限定させていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。すでに受賞した人からの応募作品が賞に該当する場合は〈特別賞〉として当館発行の「館報」掲載を予定しています。

■後援 西日本新聞社 ●協力 モンブランジャパン

応募先  
問い合わせ

〒803-0813 北九州市小倉北区城内2番3号 松本清張記念館 読書感想文コンクール係

TEL 093-582-2761 FAX 093-562-2303 ※応募用紙は記念館HPからダウンロードできます。

## 記念館からのお知らせ

平成30年4月1日付で勝原雄一が館長に就任し、館長代行の丸田圭一が副館長に就任しております。どうぞよろしくお願いいたします。

「館報」第57号(2018年3月31日発行)7ページ上段の研究誌発刊のお知らせ、論文執筆者名に誤りがありました。

誤) 久米正雄 ⇒ 正) 久米雅雄

読者の皆様ならびに久米様にご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

● **編集後記** ● いよいよ開館20周年記念事業がスタートしました。

6月21日に開催したトークショーは、3ページにも書いてありますが、申込多数により抽選となってしまふほどの人気ぶりでした。7月21日から「清張オマージュ展」も開催しており、8月4日には横山秀夫氏による講演会「小説は事実より生(き)なり」を開催します。

11月25日のシネマ・コンサートのチケットの販売もはじめました。

みなさまのご来館、イベントへの参加をお待ちしております。

(K.H)



※第58号と第59号につきましては、展示品紹介と点描をお休みさせていただきます。

編集・発行

## 松本清張記念館

〒803-0813

北九州市小倉北区城内2番3号

TEL 093(582)2761

FAX 093(562)2303

http://www.kid.ne.jp/seicho

制作 (株)ハーティプレーン



イラスト:山藤 章二

- 開館時間 午前9:30～午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)  
小学生/200円(160円) ( )は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分  
小倉駅からはバスをご利用いただくとう便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)  
車: 北九州市立中央図書館、大手町ランプより5分

